

体験活動指導者のためのリスクマネジメント研修会

令和7年2月5日（水）～2月6日（木） 1泊2日



○目的

青少年の体験活動の安全な実施のために、指導者のリスクマネジメントスキルを向上させる。

○参加者（対象及び内訳）

対象：青少年教育指導者、国公立青少年教育施設職員
（初級者・中級者）

参加者：計12名（内訳：男性9名、女性3名）
（※その他、2日目のみの一部参加者あり）

○事業の内容

（1）「リスクマネジメント概論」 講師 田口真嗣（オンウィップス代表）

リスクとは何か、リスクマネジメントとは何か、ハザードの種類など、定義の理解の時間となった。また、現場のディレクターの心得を確認した。

（2）「活動におけるリスク」 講師 北川健司（アウトドアサポートシステム代表）

参加者自身が体験したヒヤリハット事例をピックアップし、その事例から、リスクの洗い出し作業をしながら、ディスカッションを通して人的、物的、環境の要因分析を行った。

（3）「事故事例の研究」 講師 高瀬宏樹（国立中央青少年交流の家）

過去に起きた事故事例を紹介するとともに、事故事例を分析するワークを通して、原因分析を行い、事故防止策を検討した。

（4）「ヒューマンエラー」 講師 田口真嗣（オンウィップス代表）

ヒューマンエラーとは人間が原因となって起こる失敗（人為的ミス）のこと。エラーが起こりにくい構造にするにはどうしたらよいかを学んだ。



(5) 「緊急事態への対応」

講師 北川健司（アウトドアサポートシステム代表）

緊急事態が起きた時の基本的な対応の手順を確認し、前日のワークの事例を使用して、実際に事故が起きた際の対応をシミュレーションした。

(6) 研究協議「最新のリスクマネジメント事情について」

司会 高瀬宏樹（国立中央青少年交流の家）

日本型 DBS や性犯罪、ハラスメントなど、最近の問題となった事件を紹介し、今後どのように対策を取っていくか、参加者同士で話し合った。

(7) 「安全管理体制づくり」

講師 高瀬宏樹（国立中央青少年交流の家）

マニュアルの作成方法とスタッフトレーニングの考え方について説明し、それぞれの団体でどのように進めていくかを考えた。

(8) 「アクションプランの作成」

講師 田口真嗣（オンウィップス代表）

講習が終わってから、いつまでにどのような取り組みを進めていくのかを検討した。また、受講生同士でもそのアクションプランを共有した。



《参加者の感想》

- ・マニュアルを読み込む研修、ヒヤリハット報告会など、自分たちが今できていないことを確認する時間となった。（国立施設職員）
- ・事故要因の多くがヒューマンエラーであることがわかり、分類ごとの対策が必要なことを理解した。（国立施設職員）
- ・他施設の事例も聞いて勉強になりました。実際に起きた事例を思い出しながら、みんなで対策を考えてブラッシュアップできたことが良かった。（公立施設職員）

《成果と課題》

- CONE（自然体験活動推進協議会）との連携により、最前線でご活躍されている講師をお招きして開催できたことが良かった。事例や内容が、新しく、また今、問題になっていることが受講生に伝えられて良かった。
- すべて参加型であり、参加者同士の協議によって新しい視点を得られたと話す参加者が多く、相互に学びあえるワーキングネット作りにつながる講習会になった。
- 施設職員の参加を見込んで、平日開催を設定したが、参加者を思うように集められなかった。特に、国立職員にとっては喫緊の課題であっただけに多くの参加があれば良かった。